

2020年度第1回7月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2020年7月
2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数9名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	河又弘子
	委員	白幡冬彦
	委員	古口 悟
	委員	藤澤 勝
	委員	富田哲夫
	委員	小祝章二
	委員	大森玲子

4. 議 題

- (1) 「報道特別番組 防災・減災を学ぶ」について

2020年5月24日(日) 14:00~15:00

プロデューサー	川島育郎
ディレクター・アナウンサー	福嶋真理子
取材	伊藤一貴
	鈴木景子
	小暮 智

- (2) その他

5. 議事内容

(1) 「報道特別番組 防災・減災を学ぶ」について

2020年5月24日(日) 14:00~15:00

プロデューサー

川島育郎

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：防災意識の向上を目指すことを意図し、災害時の取り組みを「気象災害」「地象災害」「情報収集と伝達課題」の3つのブロックに分けて、気象予報士の福嶋アナを中心に記者を交えて番組を構成した。番組は今年1月から3回にわたって放送した番組を1時間に再構成した。

各委員からは、

- 防災減災意識を高揚させその備えを促すこのような番組は大変有意義。記者、アナウンサーの補足説明も歯切れよく緊張感を込めながらも落ち着いた口調で聴きやすく感心した。「助けてもらう側にならない不断の努力」など心に残ったフレーズがいくつもあった。報道の遅れをいかに防ぐかは課題になる。
- 3部ともよく考えて構成されている良い企画だった。正確な情報をどのように得ていくか、いかに多くの人に正確に発信するかが、よくわかるように構成されていた。ラジオの特性を生かして一地域に偏らない情報を発信していくこと。雨による川の氾濫などは、事前情報が人的被害を抑えることになる。事前情報を正確に伝える工夫を継続して欲しい。
- 防災減災を訴える着眼点は良いが、1時間は長いと感じた。子供や親が話し合えるような話題の提供や興味を引く工夫が必要。コロナ渦の中での放送なので、コロナと災害を結び付けなければ、なぜこの時期の放送なのかとなってしまう。第1部は学ぶ要素は少なかった。2部の防災官の話や3部の長野県と取り組みなどは勉強になった。防災減災を学ぶ番組で報道機関の決意表明をリスナーに訴える必要があったのか疑問。
- 近年の異常気象や地震などからこのような番組は必要。被害を受けた方や対応に当たったかの話は、身に染みる。長野の SNS を使った取り組みなどいい事例は積極的に取り入れるべき。コロナの時代に災害が発生した際の対応等もあった方がよかった。
- 被災した方々の体験談があり当時の様子をイメージ出来て良かった。自助・共助・公助は大変参考なって改めて身の回りを再確認する必要があると感じた。地域の自治会でも情報共有もできずに課題が山積と感じた。車の中で番

組を聞くとどうしても聞き流しになってしまう。繰り返し流れる宣伝は頭に入り込む。徹底して防災減災の標語などを訴求するのも良いのでは。コロナ渦の中での避難所での対策や問題点等も周知することで準備できるのではないかな。

- 想定外の災害がいつ発生するかわからない時代を迎えて、個人・家族・地域で生命を守ることが大切であることを痛感した。テレビや新聞と連携して意識醸成に努め、災害発生の際は、きめ細やかな情報を発信して欲しい。万一の際にどれくらいの人がラジオを聴くことが出来るのか。ラジオの備えやラジオのダウンロードなどを発信して欲しい。若者や子供達の意識が低いことを踏まえてこの番組のような音源を学校の授業に活用してもらうのはどうか。
- 被災者の生の声はより身近に感じられ、学ぶや防災意識の向上には効果的だった。「気象災害」や「地震災害」のブロックはやや網羅的でポイントが絞りづらく、残念な気がした。日頃の備えはわかっているけど行動に移れないことがあり、具体的に一步踏み込んで簡単な方法や作業などを解説・誘導するようなことが考えられなかったか。情報伝達では、避難指示や勧告の在り方が課題となっているところに触れられていなかったのが残念。こうした番組は公共的な使命の一環として評価したい。
- インタビューの後にアナウンサーが重要なポイントをまとめていたことが聞きやすかった。被災者や放送局、SNSの利用者が取り上げられており様々な課題があることはわかったが、一般視聴者として興味がわく内容かどうか疑問。ツイッター等の情報発信は信頼性に課題があり、利用する際の注意点に触れた方が良かった。消防署への救助要請の留意点などについてコメントがあればよかった。
- 各部とも被災者の声があり、より身近に感じた。「自分は大丈夫」という思いから避難が遅れることもあるので、自分事ととらえられるような番組構成を今後も進めてほしい。1回聞くだけではわかりづらい言葉があった。ラジオは視覚的理解がない分注意が必要。医療関係者だけでなく調整役についても紹介されていて、DMATの理解促進に役立ち、勉強になった。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

① 社の番組「栃木放送からのお知らせ」

(2020年8月16日(日) 午前8時5分放送)

② 社のホームページに掲載(2020年8月13日～)

③ 社事務局に議事録備え置き(2020年8月13日～)

以上